（別紙4）　　平成　24　年度

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要（事業所記入）】

事業所番号	1273900082		
法人名	（有）ハロービジネス		
事業所名	グループホームふじき野		
所在地	〒285-0928　千葉県印旛郡酒々井町ふじき野3-20-3		
自己評価作成日	平成24年8月	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。（↓このURLをクリック）

基本情報リンク先	

【評価機関概要（評価機関記入）】

評価機関名	株式会社アミュレット
所在地	東京都中央区銀座6-5-12　みゆきビルbizcube7F
訪問調査日	平成24年9月29日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点（事業所記入）】

平成15年オープン以来、素晴らしい環境の中で地域住民と共に楽しく歩み、一年一年を大切に努力を重ね、オープン当初から笑顔で継続勤務している職員が何名もおり、10年を迎えようとしている。利用者家族との信頼関係も大きいと自負している。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点（評価機関記入）】

「共に楽しく歩む」をホームの理念として掲げ、利用者はもちろんのこと、家族、職員、地域の方々も一緒に楽しく歩む事を目標としている。職員もホームの理念を銘記しホームの目指すべき事に一丸となり取り組んでいる。さらに地域との交流も充実しており、ホーム独自にポイントカードを作成し、ボランティアとして訪れた方にポイントを付与し一定数のポイントを達成するとお礼品を用意している。これら取り組みは町全体の取り組みにも広がりつつあり、地域福祉の活性化にもつながっている。町からは「感謝状」を授与されるなど、ホーム内の取り組みのみでなく地域福祉の発展にも貢献している。

Ⅴ．サービスの成果に関する項目（アウトカム項目）　※項目№1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

	項　目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる（参考項目：23,24,25）	○	1. ほぼ全ての利用者の
			2. 利用者の2/3くらいの
			3. 利用者の1/3くらいの
			4. ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある（参考項目：18,38）	○	1. 毎日ある
			2. 数日に1回程度ある
			3. たまにある
			4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている（参考項目：38）	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている（参考項目：36,37）	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている（参考項目：49）	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている（参考項目：30,31）	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
62	利用者は、その時々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている（参考項目：28）	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない

	項　目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている（参考項目：9,10,19）	○	1. ほぼ全ての家族と
			2. 家族の2/3くらいと
			3. 家族の1/3くらいと
			4. ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている（参考項目：2,20）	○	1. ほぼ毎日のように
			2. 数日に1回程度
			3. たまに
			4. ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている（参考項目：4）	○	1. 大いに増えている
			2. 少しずつ増えている
			3. あまり増えていない
			4. 全くいない
66	職員は、活き活きと働けている（参考項目：11,12）	○	1. ほぼ全ての職員が
			2. 職員の2/3くらいが
			3. 職員の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が
			2. 家族等の2/3くらいが
			3. 家族等の1/3くらいが
			4. ほとんどできていない

自己評価および外部評価結果

〔セル内の改行は、（Altキー）＋（Enterキー）です。〕

自己	外部	項　目	自己評価 実践状況	外部評価 実践状況	外部評価 次のステップに向けて期待したい内容
Ⅰ.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	「共に楽しく歩む」という理念を持って、家族・地域・職員が協力して利用者を支えている。利用者だけでなく、家族も職員も一緒に楽しく歩むという思いから、「共に楽しく歩む」を理念に日々実践に努めている。	「共に楽しく歩む」をホームの理念として掲げ、利用者のみでなく、職員、家族、地域の方々も一緒に楽しく歩むという思いを持っている。理念は職員間に浸透しており、ホームの目指すべき事に向け一丸となり取り組んでいる。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の中で、もちつき、いも堀り、秋祭りなど、様々な行事に一緒に参加させていただいている　又、自治会にも加入している。地域の方々も、今日は民謡会、今日は手話ダンス、など入れ替わり訪問してくださり、こちらとしてもポイントカードを発行し、お礼を用意したりと、交流させていただいている。	自治会への加入や地域行事への参加により交流を深めているほか、多くのボランティアの方の来訪がある。さらにホーム独自にボランティアで来訪してくれた方に対しポイントカードを発行し、お礼を用意する等の取り組みを通じ交流を深めている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	町の包括支援や、町役場等の要請に応じて、認知症のケアについての講演等に数多く出向き、協力している		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	家族・地域住民・包括支援・町議会議員さん等の協力のもと、定期的に会議を行っており、活発な意見交換をしている。会議ではホームでの行事や一泊旅行の計画などいろいろな議題を気軽に話し合い、それらの行事が終わった際の決算報告などもしている。	運営推進会議には、近隣住民、地域包括支援センター、町議会議員、ご家族の方が参加し定期的に実施している。会議では介護保険改正、外部評価報告、決算報告のほか、地域からの情報を収集している。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	町役場には毎日のように出向き、いろいろ相談させていただいている　酒々井町唯一のグループホームとしてささいなことでも相談に応じて、いろいろと助けていただいている。町役場や包括支援センターのほうからも、ホームに空き部屋が出たときなどに次の入居者の紹介をしてくださったりと、助けていただいている。	町役場担当課との連携については、日頃から連携を図り、運営上疑問点等が生じた際には担当者と随時連絡を取っている。また、スプリンクラー設置時においては町長にも協力を頂くなど、町との協力関係が築かれている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	全ての職員が、身体拘束をしないケアについて理解しており、利用者も居室と居間、ホーム内を自由に行き来できるよう徹底している。ヘルパー会議等で身体拘束をしないケアの重要性を徹底している。	身体拘束の廃止に向けては、県主催の研修に参加し重要性の認識を深めるほか、毎月のヘルパー会議時において認識を深めている。現状玄関の施錠を含め、身体拘束につながる事例は発生していない。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないよう注意を払い、防止に努めている	当然のことながら、今まで一度もなく、ヘルパー会議等でも虐待防止の徹底を図っている。		

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	町の包括支援等で開催される講演があり、管理者・職員で交代で参加して知識を深めている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又はや改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時には重要事項を含む全てのことを理解していただけるよう十分な説明を心掛けており、変更や改定のあったときは、文章でのご案内や、来訪時に十分な説明を行っている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ホームの入り口に誰でも自由に投函できる投書箱を設置しており、また、包括支援センターさんに苦情受付の窓口になってもらい、家族の方がなんでも相談できる体制をとっている。どのご家族とも気軽にお話できる関係を築いており、なんでも話して下さっていると感じている。	ホーム内に意見箱を設置しているほか、面会時において随時相談できる体制を築き家族からの意見を収集している。家族の要望を受け、足浴器を利用したフットケアにつなげる等の事例も確認できた。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	定期的にヘルパー会議を行っており、全ての職員が活発に意見交換を行っている　管理者も必ず出席している。代表者が普段からよく現場を見ていることで、職員の思いや要望を把握している。	ホームでは毎月ヘルパー会議を実施し、利用者に対する支援内容、業務手順の確認のほか、職員からの意見を収集している。代表者（管理者）も日頃から現場に入り、日常的に職員と会話を交わし思いや要望の収集に取り組んでいる。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	それぞれの職員の能力に応じた評価をしており、全ての職員が向上心を持って努力を重ねている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	グループホーム協会やその他介護研究会等で開催される講座に、レベルに合った職員に参加させている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	酒々井町には当ホームのみのため、近隣の成田や佐倉のグループホームの管理者の方々と、交流させていただき、経営状況等も含め密にお話できる関係を築いている。		

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	初回の面談から入居までの間にも何度もご本人とお会いして、ご本人の今までの人生のお話を聞くことで細かい情報収集に努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご家族とも、ご本人同様何度もお会いして、どのようなケアを望まれるか、入念にお聞きするようにしている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居前から何度も話し合い、どのようなケアを望んでいるか把握し、必要に応じて他のサービスの導入も提案したりしている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	一方的にお世話するのではなく、お互い助け合える関係を築いている　当然利用者さんにこちらが教わる部分も多い。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	「共に楽しく歩む」という理念の通り、本人・家族・職員が一緒に助け合う関係を築いている。		
20	（8）	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	毎日のように入れ替わり立ち代わり、入居前のお友達が来訪してくださることもあるし、逆に本人がお友達のお家に遊びに出かけることもある。ホームとしてもとても大切にしていることであり、気軽に遊びに来ていただける環境を整え、本人がお友達のお家に出かけるときは送迎し、交流を支援している。	利用者の友人の来訪があるほか、友人宅へ遊びに出かける事もあり、入居後においても馴染みの人や場所との関係が途切れる事の無いように支援している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	ホームの中でも、どこに行くにも一緒、というくらい仲良し組さんにはおやつを一つのお部屋に運び一緒にゆっくり食べていただいたり、気の合う人同士くつろげるような環境をつくっている　孤立するような人は今まで一人もいない。		

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退居されてからもホームに顔を出して下さる方もいるし、退居後、他施設や病院に入院になった方は、お見舞いに伺ったりしている　又ご家族も、新たに入居の希望をされている方を紹介してくださったりと、いい関係を築いている。		
Ⅲ．その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	入居前の生活歴をできるだけ細かく把握することが大切だと考えている。初回の面接時に本人はもちろん家族やケアマネージャーから本人のライフスタイルを詳しく聞いたり、本人の表情や行動から望んでいること、訴えていることを読み取れるよう努力している。	利用者の思いや意向については日常会話での聞き取りのほか、ケアプラン作成時において身体的援助部門、生活支援部門ごとに利用者の課題を収集し、援助が必要な場合には介護方針を定めケアプランに反映している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	同上		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	一人ひとりの残存能力を活かせる日課表を作り、支援に取り組んでいる。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイディアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	容態の変化が見られた場合はヘルパー会議で話し合い、介護計画書の見直しを図り、家族にも説明している。	ケアプラン作成にあたってはヘルパー会議時において職員からの意見を収集し作成している。利用者個々の介護方針は「個別援助計画書」に記載し、1日の支援内容は「個人別日課計画表」に落とし込み、利用者一人ひとりの支援内容を明確にしている。	今後に向けては「個別援助計画書」内にいつまでの計画なのかが分かるように期間を明確にすると共に家族へ送付した日付についても明確になることに期待したい。
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	一人ひとりの個人別介護記録書があり、毎日ヘルパーによって詳細に記入されている職員間はもちろん、家族も来訪時いつでも見ていただけるようにしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々に生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	職員がいち早く本人の変化に気づき、その日の体調や容態によって日課の変更をするなど柔軟なケアを心がけている。		

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域のボランティアの方々が、毎月入れ替わりで出入りして下さり、そういう方々と交流することで利用者さんにはいつも笑顔が見られ、安心して楽しく生活できる住処となっている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人・家族が要望を気軽におっしゃっていただけるような関係を築いていて、それに応えるようにしている　病院・医師とも密にお付き合いをしていて連携もとれている。入居前にかかられていた病院への継続通院を希望されれば、それに応じて、職員が同行して支援している。	医療機関との連携では、ホーム提携先クリニックの往診が月に2回あるほか、24時間連絡が可能であり緊急時おける体制も確保している。入居前のかかりつけ医の継続も可能であり、利用者の要望に応じ適切な医療が受けられるよう支援している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	近隣に看護師がいるので、いつでも相談できる環境にあり、密に信頼関係を築いている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	緊急時にも即入院できるよう、病院との連携を大切にしており、これまでもスムーズに対応していただいている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	ご家族が来訪されたときなどに、最期にどのような看取りを希望されているか、話し合える場を設けている。それぞれのご家族の要望はすべて把握できており、ご家族との信頼関係も大きい 又、昨年は最期までホームで看取ることができた方がいらっしゃり、その経験が大きな力となっている。	重度化や終末期におけるホームとしての方針を家族会の中で説明を行い、意見等の収集に取り組んでいる。ホームで生活していく中で、重度化をむかえた際には、家族、主治医と話し合いを行い、利用者本位の支援につなげていく事ができるように取り組んでいる。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	マニュアルがあり、全ての職員が理解し、対応を身に着けている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	緊急時に近隣の住民の協力を得られるよう、連絡網を作っている　消防署の協力も得て、定期的に訓練も行っている。スプリンクラー・自動火災報知機の設置を行った。震災時への備蓄や、自家発電機等を検討していきたい。	災害時に備え、避難訓練の実施や備蓄品の確保に取り組むほか、スプリンクラー、自動火災報知機をホーム内に設置している。昨年の震災を機に地震に対する対策についてヘルパー会議時において職員間に周知している。	現状避難訓練の実施記録と非常用設備点検記録を綴っている書式が同一である事から、ファイルを別にする等記録の保管方法についての見直しが望まれる。

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅳ．その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	一人ひとりの人格を尊重し、声のかけ方、お名前の呼び方にも配慮するよう、職員全員が日々心掛けている。ご自身が一番好きなお名前の呼ばれ方をお聞きしておき、喜んでいただけるような声掛けを行っている。	利用者への声かけについて、特に名前の呼び方については利用者が喜んで頂ける呼び方でお呼びすることとしている。また、利用者のプライバシーについても配慮し、利用者に対し不適切な対応にならないように取り組んでいる。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日々の生活の中で、それぞれが得意なこと、優れていることをお手伝いしてもらったり、発表してもらったりしている　又、お誕生日には今までの人生に関してお話してもらうなど、自己表現できる場を設けている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者本位の考えを優先して生活できるよう支援できたか、職員一人ひとりが毎日自分自身に問いかけてみるよう指導している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	ホームでヘアカラー（毛染め）をしたり、お気に入りのブレスレットを身に着けたりと、個々のおしゃれを楽しんでいただいている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	料理ができる人は料理のお手伝いを、料理はできないが後片付けはできる人は片付けを、とそれぞれの適正に合わせて準備から食事、片付けまでを一緒に楽しんでいる。お誕生日メニューや季節や行事などの特別メニューのときには、みなさん笑顔で一緒に楽しむ光景が見られる。	食事の準備や後片付けでは利用者の状態に応じできる方には参加をして頂き一緒に取り組む事ができるよう支援している。利用者の誕生日や季節ごとの行事では特別メニューとし、食事が楽しみな物になるよう工夫している。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	一人ひとりの摂取量を把握しており、尿量排便の状態に応じて夜間の水分補給等も行っている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、全員が状態に応じて口腔ケアを行っている　又、定期的に、提携している医療機関の歯科医の検診も受診している。		

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	パット使用の方もおむつ使用の方も、排泄のパターンを把握してトイレ誘導を行っており、昼間はなるべくパットなしで過ごせるよう目指している。トイレで排泄できることの喜びや快適感を味わっていただけるよう取り組んでいる。	利用者一人ひとりの排泄状況は「介護記録」の排泄欄に記録し、利用者個々のペースを職員間で把握している。排泄は定時の声かけや誘導によりトイレで排せつできるよう支援している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	自然排便となるよう食事や水分量に気をつかい、また適度な運動を大切にしている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	本人の希望を大切にしており、本人が望めば毎日でも入浴できるように対応している。気の合う人同士、一緒に入浴できる環境も整えている。	入浴については、1日おきに利用者本人のペースを尊重し入浴できるよう支援している。入浴中は職員も介助に入り、先身や洗髪の介助につき、安全に入浴できるように支援している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々の状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	その日の体調に応じて、昼間でも休息できる環境を整えている 『和の間』という、本人の居室とは別にいつでもちょっとくつろげる部屋を設けている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬の誤飲がないよう細心の注意を払っている　薬の効能や副作用に関しても職員一人ひとりが日々勉強して知識を深めている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	本人の能力・適正に応じて役割分担を決めており、それをしてもらうことで、本人にとってもこれは私の仕事だと思えることで、自信に繋がっている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	一人ひとりの希望に応じて、お友達の家に遊びに出かけたりと、入居前からのお付き合いが続けられるよう外出支援を行っている。お墓参りやお買い物、友人宅など、本人の希望に応じて外出支援を行っている。	利用者の友人宅へ遊びに出かけたり、地域行事に参加したり、利用者の嗜好品の買い物で近隣のスーパーへ出かけるなど、利用者の希望や状態に応じ戸外に出かけられるよう支援している。また、昨年10月には温泉旅行も実施する等、戸外活動の充実に取り組んでいる。	

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	ご自身で管理できる方はご自身で所持しており、職員が毎月定期的に本人と一緒に所持金チェックして、お金の変動があった場合は家族にも報告している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	認知症の方は上手に文字を書くことはなかなか難しいが、それでも一文字でも書けた手紙は家族のもとに発送し、心が届くようにしている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	『和の間』という和室を設けており、みんながくつろげる場になっており、そこからは四季折々の景色も眺められ憩の場となっている。和室なので、冬場はこたつを置いたりと、何かとよい空間になっている。	利用者が集うリビングには季節に合わせた作品を掲示し季節感が感じる事のできる雰囲気としている。リビング横の和室も利用者がくつろげる空間として有効的に活用している。トイレや浴室も掃除が行き届いており、廊下や階段も歩行の妨げになるものは放置せず安全性にも配慮している。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	同上		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居前から使用している馴染みの家具や小物を持ってきていただき、自己表現しながら個性豊かに生活できるよう支援している。その人らしい居室になるよう、できるだけ馴染みのものを持ってきていただくよう、家族にも協力していただいている。	居室内には、利用者の馴染みの物の持ち込みを可能とし、家具類の配置についても利用者や家族の要望を尊重し、居室内においても安心してくつろいで生活できるよう配慮している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	一人で行動するときにも、迷ったり困惑したりすることがないように、トイレの場所を大きく「トイレ」「→」などと表記したり、居室にはそれぞれの表札をつけたりと工夫している。		